

# 令和4年度 鳥獣対策DX実装プロジェクト委託業務 実績報告書

有限責任事業組合吉備中央町インクルーシブスクエア

# プロジェクト概要

## ● 鳥獣害対策クラウド導入イメージ



- 目撃情報をスマートフォンやPCで入力したり、捕獲情報をわな監視センサーから取得する
- 取得・蓄積した情報をもとに鳥獣の生息状況や、行動範囲を地図上で把握する
- 鳥獣の生息状況や、行動範囲をもとに鳥獣対策を立案することで、適切な対応を実施する
- システムに蓄積したデータにより施策の効果測定を行う

## ● 鳥獣害対策クラウド利用イメージ



- 鳥獣に関する情報は、システムに蓄積される
- 利用者は、PCやスマートフォン、タブレットから鳥獣の状況（生息状況、被害状況など）を把握する
- 蓄積した情報を活用し報告書を作成する機能も提供することで、日々の業務の効率化も進めることを可能とする

# 導入したデジタルの全体像

- ワナ監視装置やドローンの導入により捕獲を効率化し、捕獲情報と捕獲補助金申請情報をクラウドで一括管理することで、猟友会・町職員の負担の軽減を実現した

## デジタル①



FUJITSU 富士通鹿児島インフォネット

鳥獣害情報をデータ管理し、猟友会・自治体職員の業務を効率化

## デジタル②



ドローンによる  
上空からの獲物確認

上空から赤外線カメラと  
望遠カメラを利用して  
獲物を確認



申請情報



国・県・自治体への  
交付金申請

## デジタル③

鳥獣害対策  
クラウドサービス

# デジタル① ほかパト

## ほかパト導入の目的

1. 害獣がワナにかかったかどうか、リアルタイムで把握する
2. 猟友会による見回り作業の軽減、ワナ管理作業の軽減
3. ワナにかかった害獣の迅速な駆除
4. ワナの動作位置把握による害獣生息域・捕獲位置のデータ収集





ほかパト子機設置状況  
(鳥獣害対策クラウドより)



# デジタル② ドローン

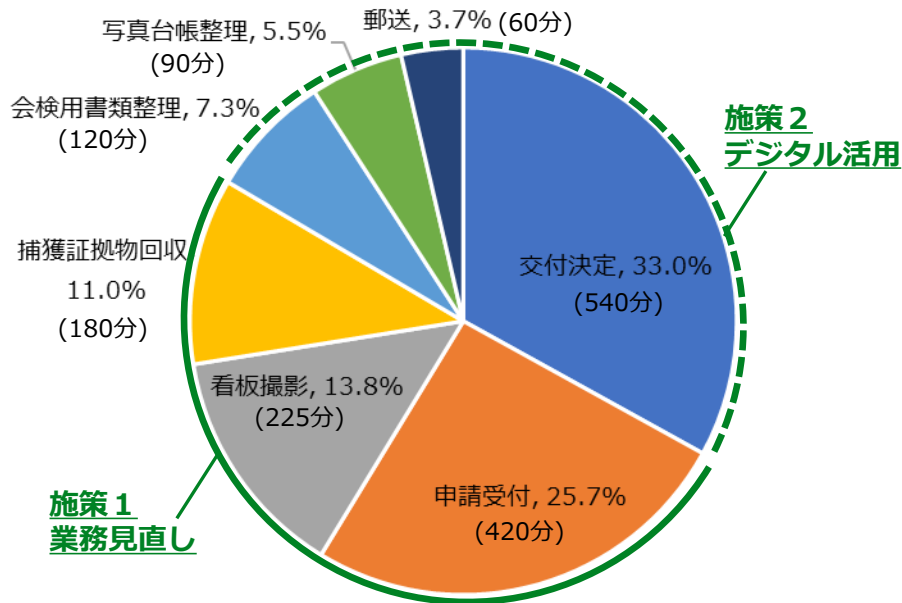
- 中型機であるDJI Matrice 30Tを2台導入し、練習用にDJI Mini2を2台導入した

	機種	機体の特徴
実践機	 DJI Matrice 30T	<ul style="list-style-type: none"><li>●サイズ 470 x 585x 215 (mm)</li><li>●バックパックに収まるコンパクトサイズ</li><li>●防塵防滴性能を備えた:災害対応、捜索・救助、夜間の調査業務などに適した機体</li><li>●スマートフォン用アプリ「DJI Pilot 2」対応</li><li>●ワイドカメラ・ズームカメラ・レーザー距離計・赤外線カメラを装備</li><li>●DJI送信機としては初の IP54 の防塵防滴設計</li></ul>
練習機	 DJI Mini2	<ul style="list-style-type: none"><li>●サイズ 188 x 144 x 140 (mm)</li><li>●199gの超軽量、手のひらサイズ</li><li>●最大18分のバッテリー駆動時間</li><li>●12MPカメラで4K/30fps高画質画像</li><li>●3軸モーター搭載ジンバルで安定</li></ul>



# デジタル③ 鳥獣害対策クラウドによる業務見直し

- 11月の業務時間を分析して業務時間のかかっている部分に着目し、「業務の見直し」と「デジタル活用」を進める



## 施策1 業務見直し

申請受付、証拠物回収、看板撮影の業務を効率化できるよう、申請受付した支所・出張所職員によるデータ登録や申請者からのメールによる証拠写真受付をおこなえるようにする

## 施策2 デジタル活用

EXCELで手作業で管理されているデータや帳票出力を、クラウド側で実施する。また、個別に実施している県・国の「支払い保留期間」についてもクラウド側で検索条件を新セグすることで対応する

# デジタル活用による工数削減

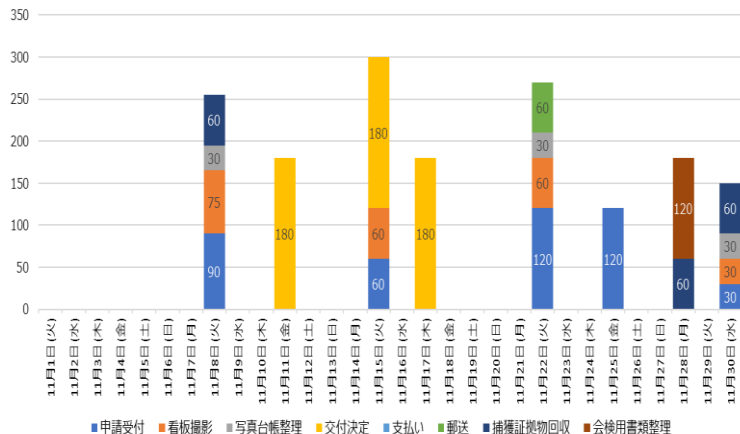
- 鳥獣害対策クラウドの導入、および、業務の見直しにより、77%の時間削減を達成

2022年11月1日～30日の実績

27時間15分(1,635分)

1日あたり 82分

1年あたり\* 352時間



2023年2月6日～3月17日の実績

8時間54分(534分)→18分/日

1日あたり 18分

1年あたり\* 80時間

